令和４年10月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第698号

林業福島

No. 698

10 2022

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■早　朝　の　光　に

～林業の技能検定制度について～

林業・木材製造業労働災害防止協会
福島県支部長　平　子　作　麿

林業・木材製造業労働災害防止協会福島県支部の業務運営につきまして、平素よりご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

現在、林業労働力の確保の促進に関する法律に係る「基本方針」が変更されようとしていますが、この審議の中で、様々な方面から林業の技能検定制度を早期に構築すべきという声が寄せられました。この技能検定制度について情報を提供します。

技能検定制度とは、職業能力開発促進法に基づき労働者の有する技能を一定の基準によって検定し、これを国が証明する国家検定制度です。

林業は高度な技能を要する職種でありながら、現在まで検定職種に登録されておらず、このことが林業技能者の社会的な評価向上やキャリアアップの難しさに影響し、引いては林業労働者の収入にも影響していると思われます。

このため、（一社）日本林業協会、全国森林組合連合会、（一社）日本林業経営者協会、全国素材生産業協同組合連合会、日本造林協会、（一社）全国林業改良普及協会、（一社）全国木材組合連合会等の関係団体が協力して、「林業技能向上センター」を設立し、林業を技能検定職種に追加して技能検定の民間実施機関となるべく厚生労働省と様々な協議を重ねてきました。林野庁はこの取り組みに賛同し令和二年から支援に乗り出しています。

林業技能向上センターでは、技能検定に係る運営委員会（酒井秀夫委員長）を設置し、委員会試験検討部会の委員には執筆者（平子）も選ばれています。具体的には、他の技能検定資格と同様に一級、二級、三級の三階級を設け、学科試験と実技試験を実施します。実技試験では基本に沿った安全な伐倒技術が求められます。本年度は全国五会場で試行試験を予定しており、特に実技試験における評価基準について検討していく考えです。

今後は厚生労働省の審査や専門調査委員会の審査等を受け、省令改正、告示を経て、正式に林業の技能検定となる計画で、令和六年の実施を目指しています。

当支部では、林業技能向上センターが進める本検定制度に協力していくとともに、この取組みがチェーンソーマン自身の意識改革に繋がり、やる気と林業労働者の待遇改善に結び付き、ひいては林業労働災害の六〇パーセントを占めるチェーンソー関連事故の減少に繋がるものと期待しています。

JLCトレーニング

《もくじ》

とびら
～林業の技能検定制度について～
林業・木材製造業労働災害防止協会
福島県支部長　平　子　作　麿……1
第５回ふくしま植樹祭を開催しました……2
県政コーナー
森林における放射性物質の状況と今後の予測について……3～4
林業アカデミーふくしま研修施設が完成しました…5～6
林業アカデミーふくしま研修日誌⑤……7
「新たな森林づくり」④ ……8
森林管理署メモ……9
木連だより……10
木の文化を育む㊸……11
木材市況・ふくしま東西南北……12
はなしのひろば・お知らせコーナー……13

第五回ふくしま植樹祭を開催しました

ふくしま植樹祭実行委員会

令和四年九月十一日（日）、第五回ふくしま植樹祭を西白河郡矢吹町文京町地内（恩賜林）において開催しました。

参加者全員による記念撮影

今回の大会は、行動制限はありませんでしたが、昨年に引き続きコロナの感染対策を講じた上での開催となりました。

第一回大会から全国に発信しております「未来へつなぐ希望の森林づくり」をコンセプトに、県民参加の森林づくりをさらに進め、未来を担う子どもたちに、美しい森と田園風景に囲まれたふるさとを継承するため、多くの方々とともに広葉樹の植樹・育樹活動を行いました。

当日は天候にも恵まれ、事前申込された約五〇〇名の方の参加をいただきました。

式典は、福島県内堀雅雄知事、ふくしま植樹祭実行委員会　小檜山善継委員長、地元矢吹町　蛭田泰昭町長、二〇二二年ミス日本みどりの女神　成田愛純さん、二〇一七年ミス日本みどりの女神　野中葵さん（須賀川市出身）の五名が登壇し挨拶などをいただき、昨年の第四回開催地であった浪江町吉田栄光町長から今回の開催地である矢吹町長へバトンリレーセレモニーの後、参加者全員による記念撮影を行いました。

植樹・育樹活動後の記念撮影

式典終了後は、参加者全員が矢吹中学校に隣接している恩賜林に移動し、ヤマザクラやクヌギ、クリの苗木計五〇〇本の植樹と里山を豊かな森に育てるため林内の広葉樹の萌芽整理を行いました。

植樹・育樹作業終了後、参加者の皆様には矢吹町から提供いただいた地元のお菓子などの詰め合わせを入れたオリジナルトートバックを配布させていただきました。また、交流イベント会場では、木工クラフトや丸太切り、薪割り、矢吹町の歴史紹介、緑の募金ブースを設け、時間の許す限り楽しんでいただきました。

植樹活動

今大会は、未だコロナ禍の中での開催ということで、昨年と同様マスク着用、検温、手指消毒等の励行など参加者の方々にご不便をおかけすることになりましたが、盛大に開催できましたこと、また、関係者の皆様のご協力により無事終了できましたことを深く感謝いたします。これからもこうした森林づくりを続けて、広げて、繋げていけるよう努めてまいりますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

育樹活動

県政コーナー

森林における放射性物質の状況と今後の予測について

福島県森林保全課

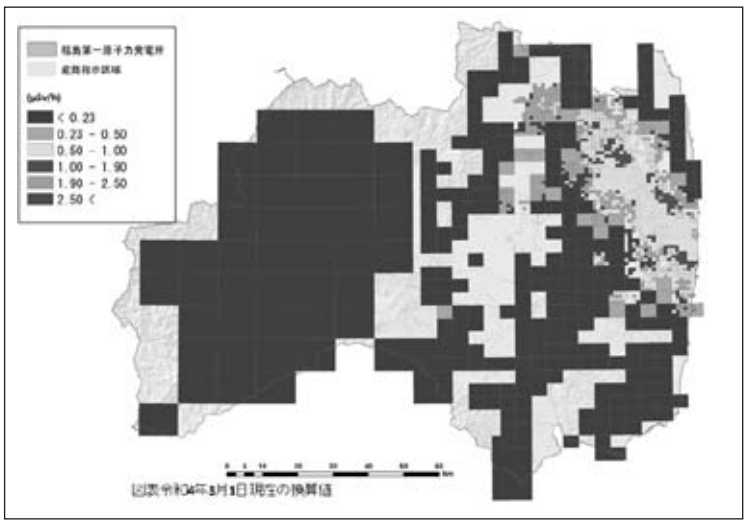
平成二三年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震を起因とする福島第一原子力発電所事故により、大量の放射性物質が放出され広い範囲に拡散しました。

福島県では、放射性物質による森林への影響を把握するため、平成二三年度より県内の民有林を対象にモニタリング調査を継続して実施してきました。今回、令和三年度に実施した調査結果及びこれまでの推移について報告します。

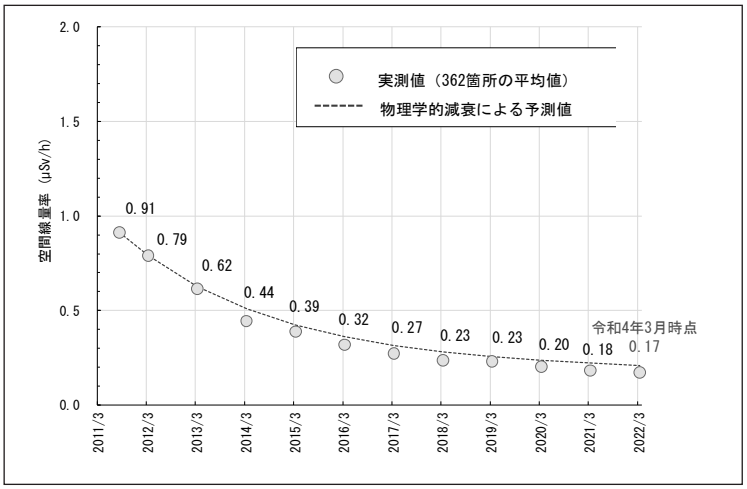
○空間線量率の推移

避難指示区域を除く県内民有林について一、三〇〇のメッシュで区切り、空間線量率を測定しています。福島第一原子力発電所から八〇キロメートル圏外は一〇キロメートルメッシュ、八〇キロメートル圏内は四キロメートルメッシュ、過去の調査で一定以上の値を計測した箇所は一キロメートルメッシュとし、空間線量率が高い地域ほど詳細に測定を行っています。令和三年度の県内の線量率測定調査の最大値は相双地区の二・八二μSv／hで、最小値は南会津地区の〇・〇二μSv／hという結果になりました。県全体で空間線量率の低減傾向が見られ、県南、会津、南会津地区では、全測定地点で〇・二三μSv／hを下回っています。一方で、避難指示区域に隣接した箇所においては未だに二・五μSv／hを超える地点もみられます（図―1）。

平成二三年から継続して調査を行っている三六二点における空間線量率の平均値の推移をグラフに示しています（図―2）。平成二三年八月には平均値が〇・九一μSv／hありましたが、令和四年三月時点では〇・一七μSv／hとなり、平成二三年と比較して八一パーセント低下しています。これまでの調査により空間線量率の推移は概ね放射性セシウムの物理学的減衰と同程度に低減することが示されています。この結果をもとに将来的な空間線量率の分布予測を行ったところ、震災から二五年後の二〇三六年には、継続調査を行っている三六二地点の平均が〇・一二μSv／hまで低下すると推定されます。



図－１
空間線量率の分布



図－２
放射性セシウムの物理的減衰と
モニタリング実測値（362箇所の平均値）の関係

○立木等の放射性セシウム濃度

県内八〇箇所において、針葉樹の立木各部位や周辺土壌等の放射性セシウム濃度測定を行っています。樹種別にスギ三九本、ヒノキ二一本、アカマツ二〇本の合計八〇本です。グラフは放射性セシウム濃度の測定結果で、横軸は空間線量率で縦軸は放射性セシウム濃度を示しています（図―3、図―4）。ここでは、辺材、心材の測定結果を示しています。い

ずれも空間線量率が高いところで採取した各部位の放射性セシウム濃度で高い値が測定されており、空間線量率と立木の放射性物質濃度は高い相関を示しています。その傾向は樹種によって変わることはないことが確認されています。このことは、昨年までの調査結果と同じ傾向で、空間線量率の測定が林業活動・素材生産を行うための重要な指標となるといえます。

なお、今回測定した箇所で材部の放射性物質濃度が最も高かったのは、帰還困難区域に隣接した箇所で採取したスギ心材で、二、一〇〇Bq／kgでした。この木材を住宅に使用した場合の追加被ばく量は年間〇・〇五〇mSvで、自然放射線による年間被ばく量二・一mSvに比べ著しく小さく、学識経験者からは「環境や健康への影響はほとんどない」といった評価が得られています。

○広葉樹の放射性セシウム濃度

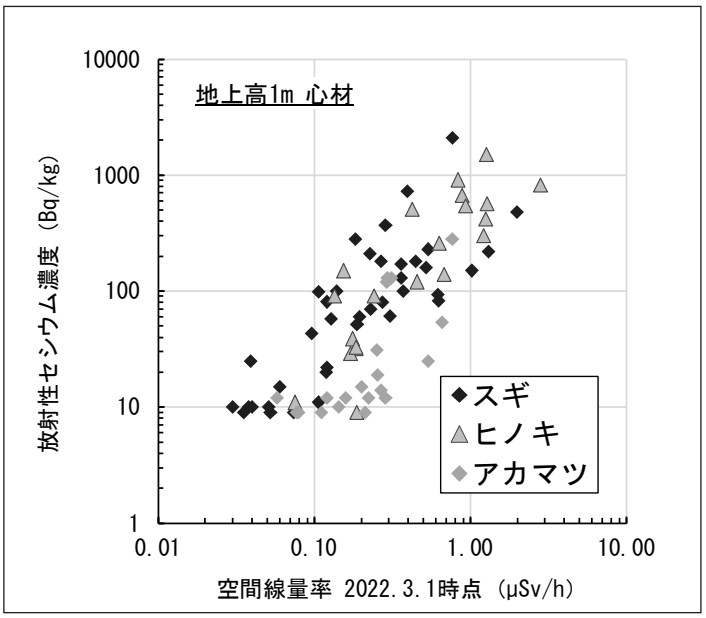
広葉樹への放射性物質の影響について調べるため、震災後に更新伐を行った広葉樹林（田村市の二箇所、いわき市の一箇所の合計三箇所）において伐採後の株から発生した萌芽枝などの放射性セシウム濃度について調査を行っています。

図―５は樹種ごとの萌芽枝の放射性セシウム濃度の測定結果になります。平成二五年から二七年にかけて放射性セシウム濃度の低下傾向がみられますが、その後は漸減傾向となり、ここ数年では、濃度の低減率は鈍化しています。また、コナラと比べるとサクラとミズナラは濃度が低い傾向が確認されています。

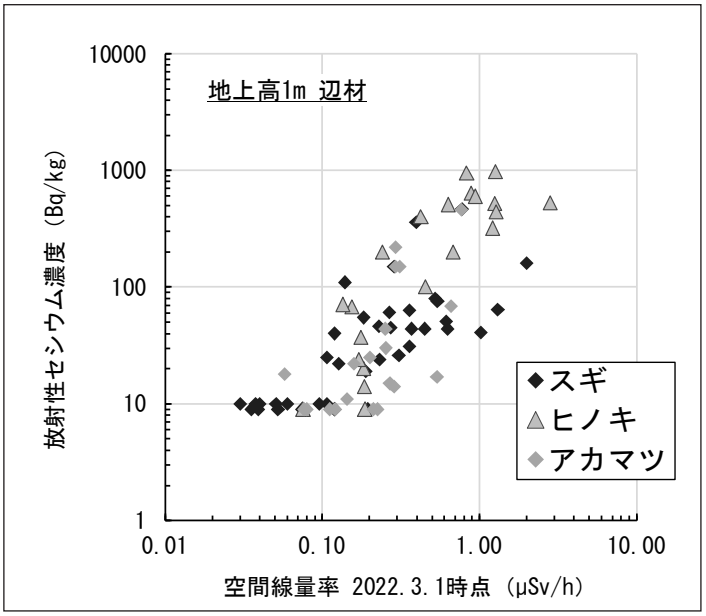
○今後の調査について

震災直後の平成二三年から森林内空間線量率の変化を継続調査し、平成二四年以降は木材の放射性セシウム濃度についても調査、分析してきたことにより、安全な林業活動、林産物生産活動の目安となる貴重なデータを得ることができています。

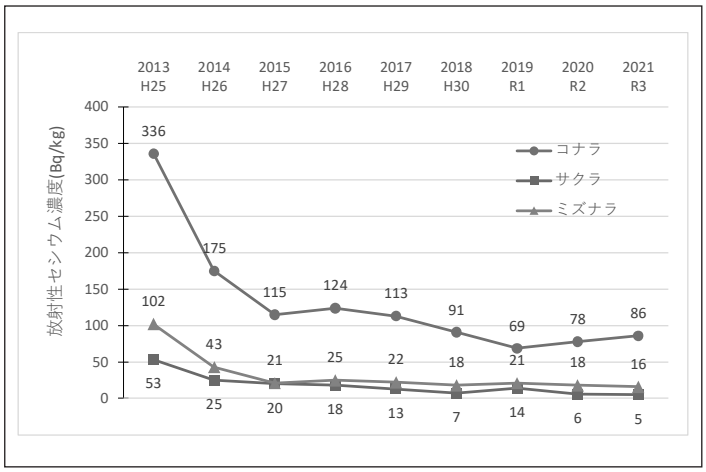
今後に向けては、空間線量率の低減とともに、避難指示区域の再編が進んでおり、それらの地域においても林業生産活動再開に向け、森林の現状把握に努めていきたいと考えています。



図－３
立木の放射性セシウム濃度（心材）



図－４
立木の放射性セシウム濃度（辺材）



図－５
広葉樹萌芽に含まれる放射性セシウム濃度

林業アカデミーふくしま 研修施設が完成しました

福島県森林計画課

1　はじめに

県では、林業分野の人材育成を進めるため、令和四年四月より「林業アカデミーふくしま」（以下、「アカデミー」）を本格開講しています。（アカデミーの研修等の様子は今年度林業福島に連載中。）

アカデミーの新施設については、県林業研究センター敷地内に整備を計画し、令和元年度の基本構想策定、令和二年度の調査設計を経て令和三年十月に着工、工事期間約十ヶ月をかけ令和四年八月二六日に竣工しました。また九月八日には内堀雅雄知事の出席及び渡辺義信福島県議会議長等多くの方の御来賓を賜り、施設完成記念式典を盛大に執り行い、無事に供用開始することができました。

今回は、新たな施設の概要についてご紹介します。十月二二日に県林業センターで開催する、第四七回福島県林業祭で見学会を行いますので、ぜひお越しください（林業祭については、13ページ「お知らせコーナー」をご覧ください）。

2　施設概要

施設は講義等を行うための研修棟、屋内で実技実習を行うための実習棟の二棟に分かれており、どちらも木造平屋建てで延べ面積は合計一、三二五・二〇平方㍍（研修棟九〇二・八七平方㍍、実習棟四二二・三三平方㍍）となっています。整備費用は研修資機材の配備も含め約九億二千万円であり、その財源には地方創生拠点整備交付金等を活用しています。

木材使用量は約二六五立方㍍で、全て県産材を使用しています。整備に当たっては、本県林業の人材育成を担う拠点としてふさわしい施設になるよう、「施設そのものが教材」となることをコンセプトにしました。アカデミーで学ぶ研修生が様々な木材加工技術を直接目視でき、今後生産に携わることとなる木材がどのように使用されているのか体感できる施設になっています。

(1)　研修棟

就業前長期研修・短期研修専用の講義室のほか、高性能林業機械の操作技術を習得するために導入したハーベスタシミュレーターの専用ルーム、林業のＩＣＴ技術を学ぶためのＯＡルーム、施設で学ぶ研修生が集い・交流するための交流スペースなども配置し、アカデミーでの専門研修に専念してもらえる環境となっています。

研修棟には、県内企業が開発に携わった「ＷＯＯＤ・ＡＬＣ」や「縦ログ構法」など様々な木材加工技術を取り入れており、施設のコンセプトを体現しています。

また、施設の玄関口であるロビーには、東京２０２０オリンピック・パラリンピック選手村ビレッジプラザの建築に使用された福島県産スギとヒノキを再加工し、大会のレガシーとして活用した「シンボルツリー」が設置されています。シンボルツリーを構成する一本一本の木材はアカデミーで学ぶ研修生をイメージし、お互いに支え合い協力しながら形づくるその姿は、研修生の林業従事者としての成長と未来への飛躍の願いが込められています。

(2)　実習棟

研修生の安全を確保しながら確実に技術習得に繋げられるよう、屋内で林業に関する実習を行うことができる全天候型の施設となっています。トラス構造による大空間を創出しており、実習棟内には林業に必要な技術を繰り返し実習できる各種訓練装置を配備しています。

また、実習棟前には機械実習スペースを設けており、高性能林業機械等の実機による操作実習も可能となっています。

3　おわりに

今回の施設整備は、構想段階から数えると三年以上の長い期間にわたる道のりとなりました。その間、様々な方々から御支援・御協力をいただきました。この場をお借りして関係者の皆様に御礼申し上げます。

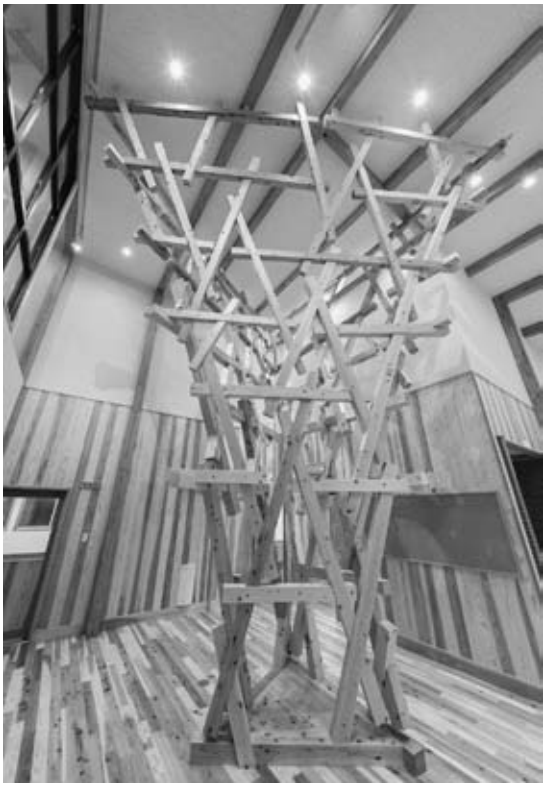
これまで仮設会場で研修を受講していた長期研修第一期生の十四名も、ようやく新たな施設での学びがスタートし、喜びの声が聞かれました。今後は、この新しい施設を人材育成の拠点として、ふくしまの林業を担う人材を一人でも多く輩出できるよう取り組んでまいりますので、引き続き皆様方の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

新施設全景（右奥：研修棟、左手前：実習棟）

ハーベスタシミュレーター

完成記念式典の様子

実習棟内部の様子



シンボルツリー

林業アカデミーふくしま研修日誌⑤

福島県林業研究センター

就業前長期研修五ヶ月目の八月。今月の後半には、レーザによる森林三次元計測やＧＩＳなど、いわゆる〝スマート林業〟に触れました。

○八月の研修内容

研修生たちは、八月中旬に**「周囲測量」**講座を受講しました。森林施業を行う前に、位置の確認や対象区域の形状・面積を把握することは非常に重要です。座学では地図の基本とコンパス測量の方法を学びました。実習では測量箇所の刈払い、測点の設定、測量、及び図化までを一通り行い、更に反復練習することで、器具やデータの取り扱いに習熟するとともに、精度よく素早く測量するための技術を身に付けました。

「林業ＩＣＴと森林ＧＩＳの基礎」では、ＧＩＳ及びＧＮＳＳの基礎知識や林業での活用について学ぶとともに、それぞれを活用した実習を行いました。ＧＩＳ実習ではふくしま森林クラウドシステムを実際に操作し、地形図に樹種や林齢ごとのデータを重ねたほか、画面に表示した微地形表現地図を元に既存作業道データ作成などを行いました。ＧＮＳＳ実習では事前に講師が位置情報を取得した林内の杭を、高精度な測位が可能な二周波ＲＴＫ―ＧＮＳＳを活用して探索しました。これらの知識は今後、効率的な施業計画や施業履歴管理を行う上で役立つはずです。

「森林三次元計測技術」では、レーザを使用して森林の三次元計測を行う装置、ＯＷＬ（アウル）を用いた森林調査を学びました。研修生たちはこれまで、輪尺や三角関数等を駆使して、立木の樹高や胸高直径を一本一本手作業で計測してきましたが、ＯＷＬを活用することで一定範囲内の立木の樹高、胸高直径、材積、各立木の曲がり、そして各立木の位置情報などを一気に取得できることを学びました。使用条件やデータの活用方法をしっかりと理解すれば、森林管理や森林施業の効率化に有効に活用できる可能性を感じられたはずです。

コンパスを用いた周囲測量実習の様子

ふくしま森林クラウドで森林GISを学ぶ

OWLで実際に林内をスキャンしている様子

○研修生の感想　橋本裕樹さん

私がアカデミーに入講して楽しい、と感じた講義はスマート林業の講義です。特に面白いと感じた講義はＯＷＬとドローンです。ＯＷＬの授業では、機械でスキャンしたデータをパソコンのソフトで立体にして見ることができました。それに、木の直径もデータで見ることができました。ドローンの授業では、ドローンを使って運搬作業ができることを知り、驚きました。これらの講義を受けて、林業の世界がとても進化して便利になっていることに驚きました。これからも、林業についてアカデミーで学んでいきたいと思います。

○研修生の感想　池田結さん

私は林業で最も大切な事は安全管理だと感じました。林業は全業種の中でも労災が多く、危険なイメージが強くあります。作業前に危険予知ミーティングは実施されますが、林業従事者一人ひとりが当事者意識を持ち、安全管理を徹底するための仕組みづくりとしては、まだ改善が必要だと日々感じています。

子供たちが将来林業に就業したいと思い、親が安心してそれを応援できること、また山と人とが共に暮らし、大人も子供たちも、自然と生きる力が備わるような取り組みも行っていきたいと考えています。

引き続き気を引き締めアカデミーで学び、自分が感じる課題について解決策、提案を考え続けていきたいです。

シリーズ「新たな森林づくり」④

野生動物との共生に向けた森林の整備・里山林整備事業

福島県森林保全課・南会津農林事務所

紹介する補助事業は…

今回紹介する事業は、地域住民が行う身近な里山林の整備を推進し、野生動物との共生、生活圏の安全確保のための里山環境を整え、併せて住民の森林づくりへの意識醸成や絆の回復を支援する「里山林整備事業」についてです。

里山林はかつて地域住民により薪炭材生産、落ち葉の採取などに利用されることで維持管理がなされ、里山環境が保全されていましたが、近年その利活用が少なくなり、人々の生活に身近な里山林での野生動物の生息区域（えさ場、隠れ家）が拡大し、里山や周辺地域での農林業被害や人的被害が増えているのが現状です。

このため、平成二八年度に福島県森林環境税を財源とした里山林整備事業が創設され、昨年度は県内十二市町村で、一一ヘクタールの里山林が整備されました。

○事業内容

当事業における里山林の整備とは、①人々の生活圏と野生動物の生息地との間の緩衝帯の整備、②手入れがされず荒廃した里山林内の景観整備、③里山林内の危険な枯損木等の整理、④クマなどによる立木への剥皮被害対策の実施とされており、里山林の整備を行うための用具購入やチェーンソー特別講習等の受講、意識醸成活動に対する費用を支援しています。

なお、森林整備の技術や経験がない等、地域住民が自ら里山林整備を実施できない地域においては、技術を有する者へ委託して整備を行うことも可能です。この場合は、森林づくりへの意識醸成がより一層図られるよう、住民の整備作業への参加や委託先等を講師に里山林の維持管理方法を学ぶなど、住民が里山林整備に関わる取り組みを実施することとされています。

○事業主体

任意の団体、組合、会社、林業事業体など

○補助率

定額（ヘクタール当たり四〇〇千円を上限とする）

※一団体当たり二ヘクタールを上限とする。

○令和四年度予算額：四五、〇〇〇千円

〈南会津農林事務所における取組事例〉

南会津農林事務所管内では、地元からの要望が多い①の緩衝帯整備を、林業事業体に委託して実施する事例が多くを占めています。

南会津管内の里山林整備事業における緩衝帯整備の実績　（面積：ha）

	地区数	整備面積
H28	13	25.00
H29	9	16.80
H30	21	39.41
H31	27	53.00
R２	37	53.63
R３	43	59.75
計	57地区	247.59

※複数年度実施している地区があるため、地区計は単年度の合計と一致しない。

○技術面での工夫

野生動物は、基本的には臆病で人を恐れる生き物とされているため、林内の見通しを良くする施業として、低層木の刈払いのほか、数年間は効果が持続するよう、かん木や劣勢木等の除間伐及び枝打ちを行っています。必要な緩衝帯の幅は、あまりに狭いと効果は少ないですが、地域の実情や地形によって違いますので、特段の基準は設けていません。なお、事業の目的上、皆伐は行っていません。

集落によっては、里山林整備事業の実施のタイミングに合わせて、農業サイドの防除対策であるワイヤーメッシュや電気柵も設置することで、緩衝帯整備による「抑制」と防護柵による「抑止」の合わせ技で更なる効果を上げているところもあります。

除間伐された木は、最近増えている薪ストーブに活用されるほか、あえて林内に残して獣が歩きにくいようにしている箇所もありました。

○今後の取組と課題

実施要望の多い当事業ではありますが、南会津地域も過疎化・高齢化が進んでいて、時に重労働となる里山林整備活動に取り組める若手が少ないので、地域の方々と協議しながら、持続的に活動ができる体制の構築に向けて取り組んでいきます。

里山林整備事業　施行前

里山林整備事業　施行後

緩衝帯整備・防護柵整備による獣害対策実施箇所
（緩衝帯整備後約２年経過）

緩衝帯整備状況

現地での打合せ状況

森林管理署メモ

西根川上流での治山工事

林野庁
関東森林管理局

会津森林管理署
南会津支署

南会津町の栃木県境に聳える田代山は、標高一、九七一メートルのプリンのような形をした、頂上部分が高層湿原となっている珍しい山で、イワカガミやキンコウカ、タテヤマリンドウといった植物が見られることもあり、ハイカーに人気です。

その湿原を水源とする西根川の源流部は、昭和三〇年代には北側斜面での山腹崩壊が見られ、それ以降も台風や梅雨前線豪雨等により甚大な被害が発生しています。

これらの山地災害を受け、会津森林管理署南会津支署では、昭和三〇年代後半から治山工事として、治山ダム、航空実播工等を実施してきましたが、平成三〇年九月及び令和元年十月の台風により崩落が拡大したことから、従前からの対策に引き続き、令和二年度以降も以下の対策工事を実施しています。

令和二年度からの西根川上流地区での対策工事

○巨石積護岸工

土砂の下流域への流出防止や浸食被害拡大を防止するため、現地に堆積した土石を使用して巨石積護岸工を施工しました。

○河床内堆積土砂の流下防止のための既設治山ダムの嵩上げ工事

既設治山ダムに、細木沢最上流から流出した土砂が過剰に堆積（ダム直下にも堆積）していることから、これらの過剰に堆積した不安定土砂と放水路状況等を考慮して既設治山ダムの嵩上げを施工しました。

○ヘリコプターを活用した袋詰玉石工及び侵食防止工（ＢＳＣ工法）

袋詰玉石工は、玉石をネットに詰め、それを積み上げていくことで土留め等を行う工種であり、詰石は崩壊地の下流域に堆積している現地資材を使用しています。

侵食防止工とは、土壌藻類を散布し、散布面に藻類が定着することで裸地を保護し侵食を防止するとともに、自然に種子を呼び込む基盤を作ることで将来的に緑化に繋げることができる工種です。

令和四年度の対策工事

○河床内堆積土砂の流下防止のための既設治山ダムの嵩上げ工事

○ヘリコプターを活用した侵食防止工（ＢＳＣ工法）

～結びとして～

施工地の斜面状況の経過観察を継続し、実施した工事の効果について確認するとともに、将来にわたり計画的に工事を進めていく必要があります。

今後とも、福島県や南会津町、環境省などの関係機関と協力しながら引き続き西根川上流での治山事業に取り組んで参ります。

田代山崩壊斜面

施工前（H元年既設治山ダムを下流より望む）

施工後（雪解け後、治山ダムを確認　※点線は旧堤体）

ヘリコプターによる侵食防止工

木連だより

JAPAN ReWOODに出展しました

福島県木材協同組合連合会

八月二四日から二六日まで東京都港区の都立産業貿易センター浜松町館で東京都が主催する国産材製品の展示商談会「WOOD COLLECTION 2022 JAPAN ReWOOD」に出展しました。

この展示商談会は急な開催実施にもかかわらず、全国二〇都道県から七二団体が出展され、福島県からは県木連のほか、郡山地区木材木工工業団地協同組合、協和木材株式会社、江戸川ウッドテック株式会社が参加し、製品サンプルなどを前にして熱心に商談や情報交換を行いました。

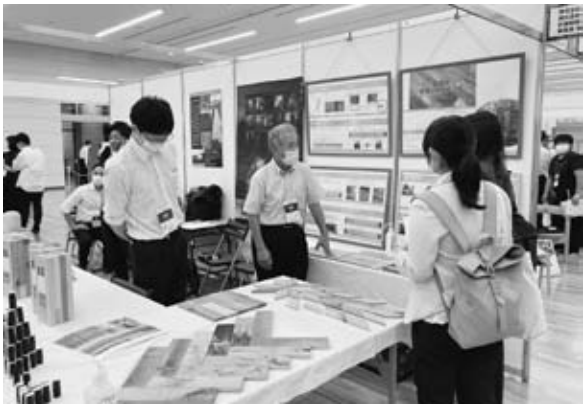
県木連では県内のJAS認証工場の紹介や木製遊具の紹介、木工団地組合からは組合で製作したテーブル、イスのセットを持ち込み木製家具の展示を行いました。

協和木材では自社製材品のカット部材を展示し、JAS構造材の品質管理などについて説明を行い、江戸川ウッドテックからは広葉樹フローリングの製造工程や多様な樹種の無垢フローリングが持つ温かみのある製品をアピールしました。

他県のブースでも建築材をはじめ様々な木工品や家具などが紹介され、展示方法にも工夫を凝らしたものが多く、今後の出展にあたり大変参考となったところです。

今回の展示商談会は、東京都が毎年冬に開催しているWOOD COLLECTION（通称モクコレ）のミニモクコレ版として開催されたもので、今後も定期的に開催し、年間を通じて国産材製品をアピールする機会を創っていくこととされています。県木連としても、このような機会を通じて県内外に本県産材製品の普及PRに努めてまいります。

JAS認証工場の紹介


フローリングの紹介

JAS製材品の紹介

木の文化を育む㊸

暮らしに寄り添うモノづくり

（かわらまち木工舎）

郡山女子大学　生活科学科　建築デザイン専攻　准教授　阿　部　恵利子

○はじめに

毎日の暮らしに必要な身近な道具から住宅にいたるまで、私たちの生活では様々な場面で木が使われてきました。「身近に手に入る材料で長く使えるモノづくり」は、大量生産・大量消費の時代から、持続可能なモノづくりの時代へとシフトし、モノづくりの原点として、そして一つのモノを大切に長く使い愛着あるモノに育てる楽しみを見出してくれます。

○想いをカタチに

二〇〇四年、収納家具や小物づくりを中心に木工制作を始め、木製品の良さや楽しさを多くの人々に伝える「かわらまち木工舎」（福島・須賀川市）の中山由紀子さんは、これまで間伐材や地元の果樹の木など福島県産の木材を材料に、心地のよい暮らしを実現するためのさまざまなモノづくりに取組んできました。

二〇〇六年から木のスプーン制作を始め、多様な種類の木材に触れていくうちに、木が持つ美しさや手触りを活かした、暮らしを豊かにする生活の道具を多くの人々に提供するに至り、近年ではアメリカ・イギリス・中東など、海外からの注文にも応じています。

木のカトラリーやプレート、カッティングボードは全て手作業で制作し、使い手の使い易さや心地よさを重視しています。美しく温かみのあるフォルムと滑らかな質感は、何度も水通しとやすりを掛けることで生み出しています。

想いをカタチにした作品は、中山さんが自ら建てたコンパクトでありながら機能性を兼ね備えたこだわりの工房で制作されています。自宅の傍らに佇むように建てられた工房は、身近ですぐに手に入る材料を使い作り上げたそうです。アンティークの小窓や飾り棚が印象的な可愛らしい工房で、中山さんの作風を反映しているかのようです。飾り棚の小さなインテリアが素朴でホッとする雰囲気を醸し出しています。

○森と暮らしをつなぐ

中山さんは使い手に大切にしてもらえるような作品を制作し、世界中の人々に届けることで、森と暮らしをつないでいます。荒廃した山は材料の入手先の一つとなっており、森林整備をしながらさまざまな樹種に触れ、モノづくりに見合った木材を入手します。そんな中山さんのモノづくりには、木のスプーンや道具を安心して長く使ってもらいたいという想いが込められています。「どこで育った木なのか、どこで作られた素材なのか分かる身近な材料を使用しています」と中山さん。作品の仕上げに使うオイルは中山さんの叔母が栽培する食用の新鮮なエゴマ油を使用し、食につながる道具を安心して使えるよう産地や素材にもこだわり制作しています。

○木のカトラリーワークショップ

中山さんはイベントを通して、木のカトラリーの販売のほか、「アイスクリームべらづくり」などのワークショップを開催しています。子どもから大人まで、幅広い世代に木の良さやモノづくりの楽しみを伝えるため安全面に配慮し、刃物は使わずに紙やすりで仕上げるワークショップも大変好評を得ています。

○メンテナンス相談室

イベント出店に合わせ『木のカトラリー・木の道具メンテナンス相談室』も開催しています。かわらまち木工舎の木のカトラリー・木の道具を購入した方、もしくはワークショップ参加者を対象に制作したものを無料でメンテナンスしています。木のカトラリーの手入れの仕方を伝えることで、中山さんは暮らしに寄り添う木の道具を長く大切に使い、愛着あるモノに育ててほしいと願っています。

○まとめ

素材に触れ直接メンテナンスをすることで愛着が湧き、ひとつのモノを大切に長く使いたくなる気持ちが芽生えます。暮らしを豊かにする木の道具を愛着あるモノに育てる楽しみを貴方も見出してみませんか。

中山さん自らが建てた工房と暮らしに寄り添う木の道具

木材市況

六月の原木市場への入荷量は、前月比六パーセント増（前年比四パーセント減）の二五、三〇一立方メートルとなっている。

販売量は、前月比七パーセント増（前年比四パーセント減）の二五、三九七立方メートルとなっている。

七月の価格は保合いとなっている。

素材の価格〈工場着価格〉（2022年７月15日現在）

（単位：㎥当り千円）

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	中通り地方 当月	中通り地方 前月差	会津地方 当月	会津地方 前月差	浜通り地方 当月	浜通り地方 前月差	県平均 当月	県平均 前月差
一般用材	小	5～9	4.00	並	スギ	10 (10～10)	0	(0～ 0)		11 (11～11)	0	10 (10～11)	0
		10～14		並	スギ	17 (17～17)	0	(0～ 0)		16 (14～18)	0	17 (14～18)	1
	中	14～22	3.00	並	スギ	17 (16～19)	△1	16 (16～16)	1	17 (15～18)	0	17 (15～19)	0
				並	ヒノキ	19 (19～19)	0	(0～ 0)		25 (20～30)	0	23 (19～30)	0
			6.00	並	スギ	20 (17～22)	0	12 (12～12)	0	21 (21～21)	0	19 (12～22)	0
				並	ヒノキ	30 (30～30)	0	(0～ 0)		29 (29～29)	0	30 (29～30)	0
		20～28	3.65	並	スギ	15 (15～16)	1	14 (12～15)	0	14 (12～15)	△1	14 (12～16)	0
			4.00	並	スギ	15 (14～16)	1	13 (12～14)	1	14 (13～15)	△1	14 (12～16)	0
				並	アカマツ	11 (10～12)	0	(0～ 0)		11 (10～12)	0	11 (10～12)	0
			1.80	並	アカマツ	11 (11～11)	0	(0～ 0)		10 (9～10)	0	10 (9～11)	0
外材	米材(定尺)	30以上	10.00	並	米ツガ	(0～ 0)		(0～ 0)		38 (38～38)	0	38 (38～38)	0
				並	米マツ	(0～ 0)		(0～ 0)		40 (40～40)	0	40 (40～40)	0
	北洋材(定尺)	28以下	3.80	並	エゾマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		35 (35～35)	0	35 (35～35)	0
			4.00	並	アカマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		35 (35～35)	0	35 (35～35)	0
				並	カラマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		35 (35～35)	0	35 (35～35)	0
パルプ用材				並	マツ	7 (7～ 7)	0	(0～ 0)		(0～ 0)		7 (7～ 7)	0
				並	広葉樹	10 (10～10)	0	(0～ 0)		(0～ 0)		10 (10～10)	0

区分	形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	会津共販 当月	会津共販 前月差	いわき 当月	いわき 前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0～ 0)		7 (6～ 8)	0
	13~14		並	カラマツ	(0～ 0)		8 (7～ 8)	0
	16以上		並	カラマツ	(0～ 0)		10 (8～11)	△1

注）１．前月差の△印は値下りを示す。
２．（ ）内は各地域の価格幅、（ ）外は各地域の平均的価格を示す。
３．一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
４．各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

ふくしま東西南北

イチョウの謎

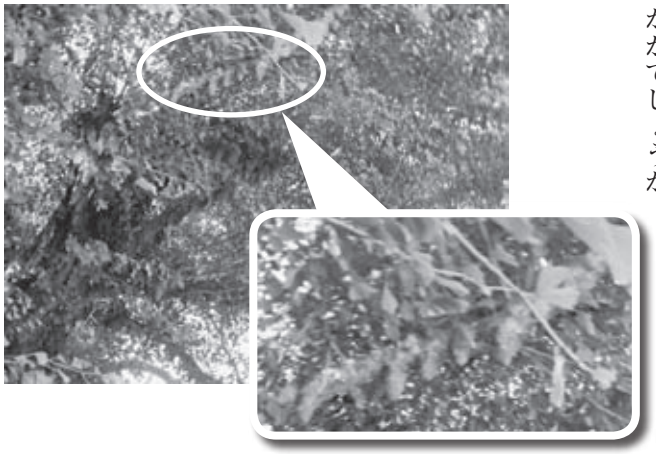
県中農林事務所　斎藤翔太

林業福島「ふくしま東西南北」の原稿執筆にあたり、休日はほとんど自宅で過ごすほど行動範囲の狭い私は何を書こうか悩んでいましたが、仕事中に偶然発見したイチョウについて書こうと思います。

提出期限の迫った九月中旬、私は平田村にある緑の文化財「十文辻のサクラ」の一部伐採作業の確認を行った帰りに、同じく緑の文化財に指定されている「地蔵ザクラ」の現地調査のため苅万田地区に立ち寄り発見したのが写真のイチョウです。地蔵ザクラの状態を確認する中、ふと近くのイチョウを見ると、枝からコブのようなものが垂れ下がっており、私自身初めて見る光景で驚きました。

帰宅後にインターネットで調べてみると、イチョウは写真にある気根のような「乳」と呼ばれる構造を茎から地面方向に形成するようで、「解剖学的研究から、維管束形成層が過剰成長することで形成されることが分かってきたが、その機能と相同性は分かっていない」と記載がありました。

なぜイチョウは「乳」と呼ばれる構造を形成するのか、それはどんな機能を持つのかなど、調べても分かりませんでしたが、普段見慣れたイチョウにも未だに分からないことがあると考えると、樹木の世界は改めて面白いなと感じました。平田村の「地蔵ザクラ」を見に行く際は、こちらのイチョウもご覧になってはいかがでしょうか。



はなしのひろば

葉書

このデジタルの時代に、毎月、友人と葉書通信をしていた。中高の同級生だが、ひょんなことで、平成二九年からまた交信が始まった。月に一度、葉書の決められたスペースにお互いの思いを込め、共有し合ってきた。

彼女からの葉書は、郵便番号を書く四角いマスが五桁の葉書や、戌年には二四年前の犬柄の葉書だったりした。そして、切手も然り。宛名面の半分が郵便料の不足を補う切手だらけだったこともある。メールやラインは瞬時に思いを飛ばすことができる一方、葉書は、相手に届く頃には、もう書いた時の思いではないかも知れない。が、メール等では味わえない世界がある。文字の感じからくるその人らしさや余白からも「思い」が味わえた。

しかし、訃報というのはいつも突然舞い込んでくる。八月末に彼女が病気で亡くなったと知らされた。

少しずつ遠のいていく十月の光と低く吹き渡る風は、混じり合うことなく、それぞれが澄んだ二層のままだ。混じらないだけに心地よく、そして、今日は、雑音もなくやけに静かな休日だ。そんな昼下り、彼女の葉書をいちまい、いちまい、切手の模様や日付までも読んでいる。葉書の向こうには、感性のままに文字を綴っている彼女が確かに存在している。

常々、彼女と会って「どうして私達は、葉書通信にこだわっているのかね？」と話してみたいと思っていたが、もう知る由もない現実である。

（これから、ひとりで、ゆっくり、探ってみるよ…）深まりいく秋に丁度した自分への問いかけである。

（都）

表紙の写真

「早朝の光に」

第36回ふくしま緑の写真コンクール　金賞

受賞者　泉田　実さん（三春町）

撮影場所：檜枝岐村

編集　福島県
福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会

発行　（福島市中町五番一八号県林業会館内）

発行人　飯沼　隆

陽光社印刷株式会社　宏

（定価　一一〇円）

お知らせコーナー

第47回福島県林業祭の参加者を募集します!!

今年は、林業を知らない皆さま、これから林業の担い手となる世代の皆さまなど、多くの方々に、森林・林業の役割やその重要性、林業という仕事の魅力について、関心を持っていただくことを目的に開催します。

新型コロナウイルス感染症対策として、参加を希望される方はホームページより事前申込をいただくとともに、会場内でのマスクの着用、手洗い、手指アルコール消毒など、感染防止対策に御協力をお願いします。

ご家族連れで楽しんでいただける内容となっていますので、皆さまからの参加申込をお待ちしています!!

日　　時　令和４年10月22日（土）９：30～15：30

会　　場　福島県林業研究センター
（福島県郡山市安積町成田西島坂１）

入 場 料　無料

イベント　木工体験、高性能林業機械の試乗、
林業アカデミーふくしまPRブース、森のオークション、
チェーンソーアートショー、
ふくしま伐木チャンピオンシップ（チェーンソー技術コンペ）、
きのこまつり、森林の仕事ミニガイダンス、木工品や農産物販売　等

参加をご希望の方は、下記ホームページURLよりお申し込みいただくか、県庁森林計画課へお問い合わせください。

お申し込み：https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/ringyosai/

お問い合わせ：県庁森林計画課　電話 024－521－7426　FAX 024－521－7543

主催：福島県林業祭実行委員会　**後援**：郡山市　**協賛**：（一財）福島県林業会館

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。

1 火災
山火事で受けた損害

2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害

3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害

5 干害
乾燥による枯死などの損害

6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》
◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255㈹
または最寄りの森林組合

For the future with forest

イワフジ工業株式会社

http://www.iwafuji.co.jp/

（ 仙台支店 ） 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699
（ 本社 ・ 工場 ） 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
（ 支　　店 ） 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中四国・九州

林業福島 十月号 通巻第六九八号
令和四年十月一日発行
（毎月一回一日発行）
監修 福島県農林水産部
編集発行人 飯沼 隆宏
発行所 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号 県林業会館内
定価 一一〇円（税込）
年間購読料 一、九八〇円（税・送料込）

いざという時、あなたの備えは万全ですか？
福島ミドリ安全の防災対策
企業防災のご提案
保管スペースのご提案
災害時のゴミ対策

その日を恐れるのではなく、その日に備える

福島ミドリ安全株式会社
代表取締役社長 白石昇央
【本社】〒963−8550 福島県郡山市桑野4−1−22
TEL.024−923−5178・FAX.024−923−5211
E-mail info@f-midorianzen.co.jp

ZENOAH®
人と共に 緑と共に

For Professional

BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

ZHM1550RR

刈幅：1500mm 出力：27.5kW

SR3100

破砕径：200mm 出力：18.4kW

For Professional

GZ3950EZ
排気量 39.1cc
／
GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ハスクバーナ・ゼノア㈱ 福島県代理店
(有) うねめ林業機械
TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1